

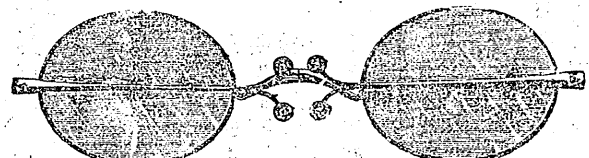
發行編輯人 川崎文治
 印刷所 常盤毎日新聞社
 電話 三〇七番

常盤新聞

定価 一月五圓 三月十五圓 半年三十圓 一年六十圓
 郵費別 外埠加郵費
 印刷所 常盤毎日新聞社
 電話 三〇七番

二十二年二月廿九日 夕刊

美味で評判の
遠藤ハン
 (平野前)



常盤屋時計店
 電話 三三九番

答掛け心地が良く、眼や脳へは絶対弊害がなく晴々からです

常盤文藝

去り行く者へ
 孤舟生

去り行く者にみれんはないが不自然な事で互へに遠さかる御身をなげかはしい神に捧げた御身の姿

それほど迄にみだれて居たか己れが... 己れの心を見かえる事が出来たのかお... 水の流れの冷たさと清さを知れ

一九四、二二六

看護婦派出所

の求めに應ず

平野南町
 看護婦會
 電話 三〇七番

に鶴屋

電話 百四十番

今冬ノ御案内
 小供毛シヤツ
 小供毛系洋服
 婦人シヤール
 都卷各種
 オーパーセイヤツ
 大人本毛シヤツ
 メリヤス類色々
 家庭ノ編物トシテ
 經濟ナ毛糸各色澤
 山崎ッテ居リマエ
 海岸線平町

開設
 御料理
大村や
 郡役所横通

旅館
大村屋
 平野二丁目
 電話 一七五番

渡邊藥局

平野三丁目
 渡邊政五郎
 (郵便局向)

工處方調劑
 染料藥品
 藥品

寄書

小學校漫言

岳人

俺の天職は先生である、俺の性質は聖人なり君子見たよな先生向である、と自覺した人を一人でも余澤に欲しい、樂だとか徴兵の關係上の人には眞平だ

中等學校入學難の聲は益々激しい、單にお義理だてに夕刻まで居るのは多小の運はあるにしても結果の事が芳しくない、尤も餘剰労働は認めることも...

執務時間とか勤務時間とか

新電話三〇番

電話 三〇番

ゼブラ自轉車購買會

プライム

◎今回は何時でも御入會が出来升
 ...景品付...
恵比壽屋商店
 平野南町 (電話呼三三四番)

眞に是れ鬼に金棒!

耐火耐震耐久力の絶大なる
 日本コンクリート鐵網

拔群優秀なる斯界の權威

磐城セメントを推奨す

最も經濟的に然も超越せる無比の良材

(施工説明書を進呈致します)

特約代理店 平野五丁目
久釜屋商店
 電話 園九番、一三九番

内科
 小兒科
 淋病科
 梅毒科

(需應院入平町紺屋町)

藤沼醫院
 電話 園五〇七番

カガミ

使用に耐ぬ鏡も安價で新品と同様に直す鏡の修繕處は
 古鍛冶町通り 芳香園油店
 (外に新品大小鏡各種取揃へてあります)

の制は意味がないではないか? 其の先生は自動的にか? 家庭まで其仕事を延長してやつてる、新聞さへ讀まぬ人さへあるのだもの

施設事項とか努力事項とか千編一律の印刷物が山積してある、それは參觀者に刻明に配ることになつてる

それに依つて學校並に校長の名聲四海に輝く所以である、でも優秀児童の區劃線は更に融合されそうにも見えぬ

大丸校長の施設經營の方針案は視學郷土町村會議員他學校來校者の目を見はかせ感心させる、そして賞讃の辭を與へらるる毎に職員と共に喜び茶話會やら宴會やらが開かれ

耳鼻科専門

大和田醫院
 平野南町
 入院應需 自炊ノ便アリ

株式賣買中值

電話に金融致します

銘格	拂込	時價
磐城銀行	五〇、〇	五三、五
平野銀行	五〇、〇	六八、〇
磐越銀行	一二、五	一〇、五
磐城實業	五〇、〇	四三、〇
磐城實新	三〇、〇	二八、〇
田村實銀	一二、五	一二、五
四倉銀行	一七、五	一七、五
農工銀行	二〇、〇	二五、〇
同新	一五、〇	一九、〇
同新	五〇、〇	五五、〇
同新	一二、五	一六、〇
同新	一二、五	九、八
同新	五〇、〇	四三、五
同新	一二、五	一九、五
只見川電	一二、五	七、五
植田水電	一二、五	一五、五
好間水電	一二、五	一三、〇
磐城建物	一二、五	六、〇
磐城製菓	二〇、〇	二、五
平信託	五〇、〇	二五、〇
磐城勸業	一一、五	一三、五
植田物産	三〇、〇	二六、〇
平製水	二五、〇	一八、〇
好間軌道	五〇、〇	三〇、〇
入山新	二二、五	一七、〇
小田炭礦	二五、〇	一〇、〇
磐城炭礦	五〇、〇	四一、〇
同新	二二、五	一八、〇
同新	五〇、〇	六五、〇
同新	三三、〇	四四、〇
同新	一一、五	八、〇

平野南町 電話 三三三番
丸登式株店
 川添房二郎

然し兒童には無關係である

男教員が女教員の教室を個別訪問すると奇異な目をする、殊に老訓導連に... 一層去勢の教員のみ採用せは可ならん

一週に一度宛職員會とか打合せとかの名うつて總動員を行ふ、それはさ乍訪大安想狂の集ひの様に日頃のうらみ言をさも教育界の一大不詳事突発したかの様に云ふ

鼠賊を警戒
 常習者其他を
 毎年の事ではあるが暮ごき
 にあり勝ちな鼠賊の横行が
 今年は一層甚だしいものの
 様である

平署が
 如く石城地方の各町村を通
 じ一夜二三件宛の盗難届出
 があるので平署では昨今殆
 んど全力を擧げて質屋あさ
 り其他の方法で嫌疑者の検
 挙に従事しつつあり二三犯
 行の分明したるもの、或は
 近く判明の見込みあるもの
 等犯人若干名は一兩日中に
 夫々検挙さるる手筈になつ
 て居るらしく犯人は勿論常
 習者としてその筋の黒表に
 上つて居る者が多いが中に
 は手近な金品にのみ眼をつ
 け大袈裟な盗みをもせぬ空巢
 ねらひなどもあり尙酒色の
 資に窮した不良青少年の曲
 事らしいものも少からぬ模
 様である

劇珍
 同名異人で
 配達夫が面喰ふ
 古河の昔語り

平驛の異動 鐵道省
 の行政整理も赤井嵐と共に
 吹き荒んで来たが石城郡内
 の各従業員は泰山鳴動鼠一
 匹の形で平驛にては判任官
 一人雇傭員三名の餓首に止
 まり助役大高重器氏は磐越
 線赤井驛長に元赤井驛長大
 石富治氏は福原驛長に榮轉
 じ尙ほ水戸、土浦兩驛の助
 役二名が平驛助役に平驛車
 掌鹿島清兵衛氏も助役に榮
 進したと

平署に充滿
 藝妓へ訓示
 不署にては本H午後一時か

今年も残す處は
 「僅かに三十日」
 特有の引締状態は
 今月中旬頃からか

來年々々と言ふのも後三十
 日過ぎれば「今年」と言ふ事
 になつて了ふが、毎の年で
 も歳末気分と不景氣と云ふ
 聲はつきもの、様であり今
 年の殊更眞個の

不景氣
 に襲はれて
 東京あたりの小銀行では金
 融上兎角の噂さへ立てられ
 て居る向もある、銀行はそ
 んな爲でもあるまいが貸出
 警戒をし乍ら其回収に餘力
 傾倒の状態先づ平町中で
 も金融逼迫で商人などは轉
 手古舞して

歳末の
 し窮境を脱
 ようと焦つてゐる有様であ
 る然し商工業の不振や不景
 氣を喰つても師走の月を越
 してと言ふので不景氣に崇
 られた向さも尻を三四ヶ月
 据える事とするらしい因に
 警城銀行にては左の如く語
 った

郡電の
動力料値下
 昨日から改正

郡電平支店にては曩に電球
 と諸工料の値下を行つたが
 昨日から更に電力料は一
 馬力に付五十錢宛、取付工
 料は定額燈の新設八十錢な
 りしを七十錢に、同廢燈一
 圓廿錢なりしを一圓に、ま
 た廢燈料は八十錢を七十錢
 に、夫々値下げ斷行した

平稅務
署長が免官
 一日附にて

平稅務署長持館俊造氏は一
 日附を以つて依願免本官の
 辭令に接した

貨車が衝突
 七輛脱線顛覆

昨日午後零時五十八分頃勿
 來驛構内で廿二號列車が下
 り本線より下一番線に入換
 中田端驛差立の緩行貨物列
 車九四三號が信號を無視し
 突入した爲正面衝突し九
 四三號の貨車七輛脱線顛覆



家庭庭欄

寫眞に寫り方
 個性のない普通の肖像寫眞
 はごつたらぬものはありま
 せん、あれは寫眞屋へ行つ
 てひごく改まつて固くなつ
 て映るからで、それよりも

廿二號の機關助手は砂礫
 の中に跳飛ばされ顔面に打
 撲擦過傷を負つたが生命に
 は別状ない尙復舊までは
 上下兩線を單線で運用した
 ので多少圓滑を缺いた

大瀧問題にては
縣當局に肉迫せず
 香坂知事の誠意を認め
 井上縣議の決意

大瀧發電所問題に關しては
 未だ事の解決を見ない爲め
 開會中の縣會に於て一紛議
 免れまいとは既記の如くで
 あるが昨夜福島から歸平し
 た伏見助役の談に依ると縣
 當局は解決を速やかならし
 むる爲め勿論誠意を以つて
 其處置に當つて居るばかり
 でなく充分平町側に有利な
 るべき曙光を認め得る程度
 に事の進展を來して居るの
 で此際縣會に於て肉迫する
 は徒らに問題を紛争化せし
 むるのみにて當を得たる行
 動に非らずと縣議井上茂作
 氏とも打合せの結果質問は
 爲さざる事に決定した由で
 ある

急行列車
危く衝突
 平驛停電中に

一昨夜の風雨中平驛構内の
 電燈は全部停電し作業困難
 の折柄青森下り八〇一號が
 進入し來り、停留貨車に衝突
 じやうとしたのを驛員が発
 見急停車せしめたので事な
 きを得たと

記念品贈呈
 前郵便局長に

前平郵便局長として大正十
 一年赴任以來一意専心職務
 に盡した森卯太郎氏は這
 般退官郷里に歸る事となつ
 たので伊坂町長水野郡長そ

家庭等で撮つた寫眞の方が
 よほど柔かい個性がでてお
 ます、寫るとき、實際の色
 と寫眞に出る色とは違ひま
 す(例へば赤や黄は黒く紫
 や桃色は白くといふ風に)
 から着物の色の美しいのよ
 り柄や色の濃淡のハッキリ
 したものを選ぶ事です、厚
 化粧や髪にあまり油をつけ

△社告
 昨日は郡電の送電線が暴
 風被害を蒙り動力送電不
 能に陥つた結果昨紙は休
 刊するの餘儀なきに至り
 ました
 十二月二日
 常警毎日新聞社

夫人轢かる
 前額部に負傷

三十日午後一時半頃赤坂青
 山南町三ノ八星製藥社々長
 星一氏夫人さよ子(四)が同
 町三ノ二八地先を通行中後
 方より來れる市營自動車六
 五九號運轉手平井武雄(三)
 に轢き倒され前額部外數ヶ
 所に全治一週間の傷を負つ
 た (東京通信)

不平受付
 投書歡迎

鼠の死んだの、道路に鼠
 の死んだのを捨てて置くの
 が時々眼に觸れますが是れ
 は甚だ見にくいばかりでな
 く衛生上にも悪いと思ひま
 すから相當取締つて下さい
 (衛生宗)

△伊藤署長の答 夫れは
 甚だよくない事でありま
 すから先日署員に注意
 させて置きましたか今後
 眼に觸れ次第一寸手數
 ながら當署に知せて下さ
 い

てはいけません、顔の長い
 人や頬骨の高い人はソフト
 フォーカスにして貰ふとよ
 く、眼の大きい人は顔は正
 面にして下方を見、小さい
 人は上方を見るやうな心持
 ちにすると調和がとれます
 子供は遊ばしておいてとつ
 た方がよいです
 (青木寫眞館談)

ら平町の藝妓全部を樓上に
 集め伊藤署長より風紀改善
 消費節約等に就いて訓示あ
 った

平町人事
 ▲出生
 △新川町 佐藤善治氏長男喜二郎
 △鎌田町 影山野雄氏二女孝子

▲婚姻
 △東京府豊多摩郡野方町鈴木茂十
 郎(三八)三丁目浅川ハナ(二七)
 △南町 草野トモコ(一十)山形縣
 小田島村小野永助氏(二五)

▲死亡
 △材木町 當時東京市北豊島郡三
 河島町西野しげ(六九)
 △葛城跡 吉田ムネノ(三三)
 △才地小路 加茂下ヨシ(七八)
 △四丁目 島田鶴門(五七)